

基金情報

No. 54

平成18年7月号

発行：東日本硝子業厚生年金基金
〒130-0026 東京都墨田区両国4丁目36番6号 ガラス会館3階
Tel 03-3633-6445 FAX 03-3633-7125
ホームページ <http://www.glskkn.com>

平成18年度・主要事業概況

事項	6月末数	対前月増減数	事項	6月末数(累計)	
事業所数(件)	247	0	年金掛金	調定額(円) 310,630,988	
加入員数(人)	男子	5,471	1	収納額(円)	307,313,092
	女子	2,356	3	収納率	98.93%
	計	7,827	4	事務費掛金調定額(円)	14,417,766
平均標準給与月額(円)	男子	342,468	-501	資産運用	信託資産額(時価) 335億7,318万円
	女子	225,081	-244		修正総合利回り -3.26%
	計	307,134	-450		ベンチマーク差 -0.50%
受給者数(人)	5,643	3	慶弔金の支給件数・金額	20件 42万円	
平均年金額(円)	457,829	1,154	年金相談件数	271件	

厚生省監査終わる

さる7月21日、当基金における厚生労働省(関東信越厚生局)の現地監査が行われました。

現地監査は、池田社会保険監査指導官ほか2名により、事業全般にわたり終日実施されました。

事業運営・処理状況良好

現地監査終了後、監査官による『事業運営および事務実施状況ともに良好でした』との口頭の講評がなされましたが、細部についての指示もありました。

現地監査には、渡邊理事長にも立会いいただき、指示事項の改善への努力など監査への答礼がなされ、無事監査を終了することができました。

細部指示事項3点

現地監査において次の3点の細部指示がありました。

- 1 代議員会規程に、議案の表決の方法を「挙手」とする旨の規定を設けること
- 2 理事会欠席の場合にとっている委任状については、「議決権行使の書面」に変更すること
- 3 選挙録を整備すること

細部指示事項に対する対応

3点の細部指示事項に対する改善として、①代議員会規程の変更を行い、表決は「挙手」とする旨の規定を新たに設けることとしています。

また、②委任状については、9月に予定しています理事会分から、欠席理事から議案の賛否を記した書面をいただくように改めました。(委任の字句を抹消するも内容には変更なし)

③選挙録の整備については、関係書類の整理問題で、次回(平成19年)の選挙から対応することとしています。

8月の事業予定

上旬 第1四半期の運用報告ヒヤリング
29 総合監査

【お願い】

当「基金情報」を加入員の方々が閲覧いただけるよう
ご配慮をお願いいたします

ホームページでもご覧いただけます

当「基金情報」をホームページに掲載しています
創刊号から直近号までご覧いただけます
加入員の方も職場や家庭でぜひお読みください
<http://www.glskkn.com>

経理処理適切

厚生労働省の現地監査は、経理関係について重点的に実施されました。

2名の監査官が専属的にあたり、経理帳簿・伝票などの関係書類、現金・有価証券などについて入念な監査が行われましたが、一切適正でありました。

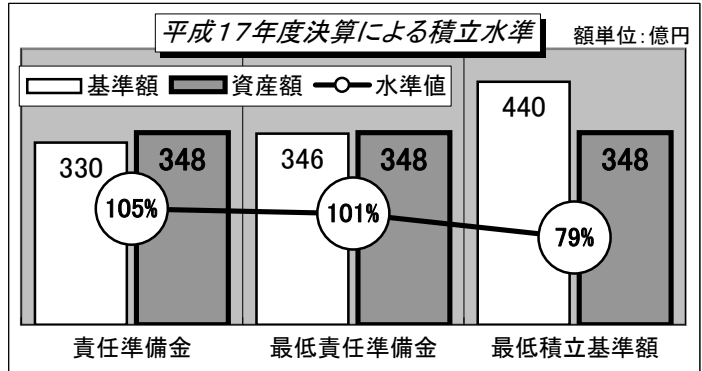
監査講評後の監査官からも『経理関係は適切です』との発言があったところです。

平成17年度・決算結果まとまる

一般、平成17年度の年金経理における決算結果が取りまとめられました。

決算内容は、9月11日に予定されている代議員会における議決が必要ですが、平成17年度は運用環境にも恵まれるなど、数十億円の剰余が発生することが見込まれています。

年金資産の増大により、積立水準は向上し、国が示す積立基準を一部クリアできる見込みでもあります。



平成17年度決算では、剰余金の発生や積立水準の向上が見込まれてはいますが、資産には過去の不足金解消のための未償却過去勤務債務(将来収益見込み分)が約90億円存在しています。

また、積立水準は最低積立基準額に20%強不足している状況にあります。

これらを考えますと、基金の年金財政は必ずしも健全財政にあるとはいえない状況にあります。

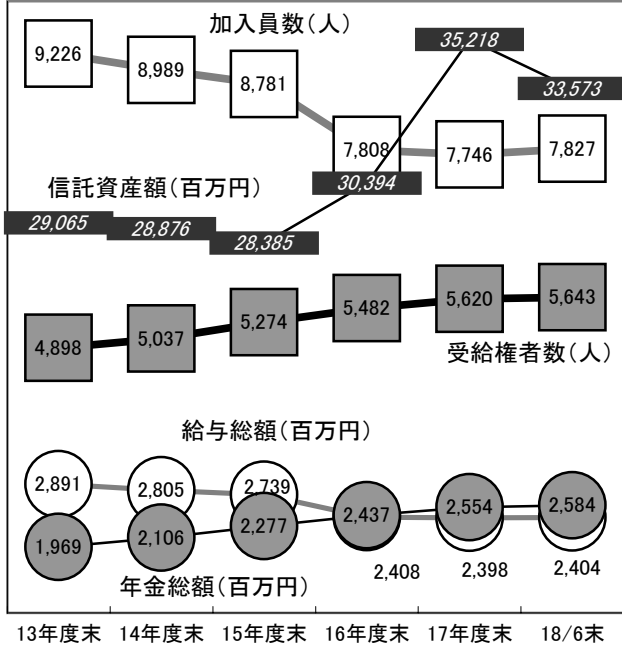
加入員数の動向や年金受給者の着実な増大、今後の運用環境も年金財政に大きくかかわってきます。

加入員数の拡大への限界的状況の中では、リスクを抑えた効率的な運用がさらに必要かと考えます。

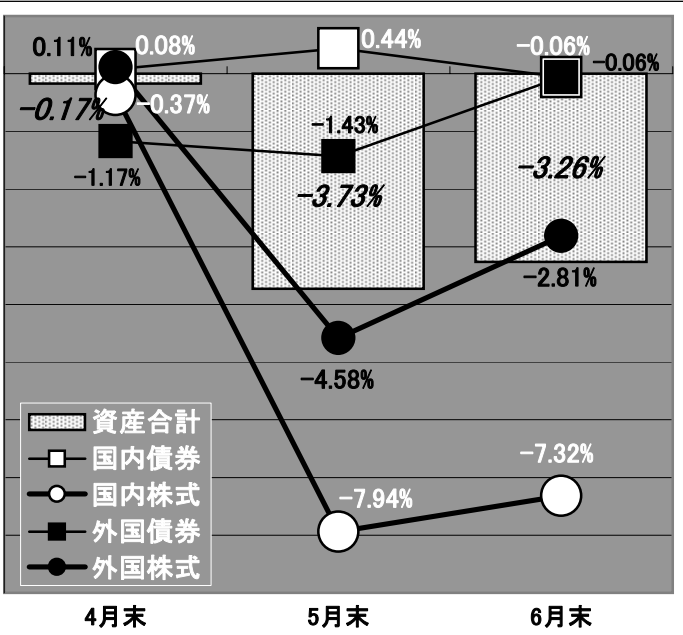
設立事業所の異動(規約変更関係等)・6月処理分

異動区分	事業所名	異動内容(新)	適用年月日
事業主変更	(社)東部硝子工業会	鈴木竹敏	18. 5. 27
事業主変更	三省工業株	菅野充昭	18. 6. 1

主要事業の推移



年金資産の運用状況・修正総合利回り <平成18年度>



基金関連・動向と状況

18年度の最低責任準備金付利率：推計3.75%

厚生年金基金の最低責任準備金(代行部分)の計算に用いられる利率は、厚生年金本体の運用実績が用いられます。平成17年度の厚生年金本体の利回り実績は、6.8%(平成19年1月～分適用)といわれています。前期(平成18年1月～12月)の2.73%との期間加重平均が平成18年度の利率として適用されます。これから推計する利率は3.75%となりますが、平成19年度適用の利率は6%近くとなることも予想され、よりハードルが高くなる懸念があります。

東京都・総合基金の資産総額10兆9856億円

東京都に所在する総合型厚生年金基金180基金の資産額合計は、平成17年度末において10兆9,856億34百万円となり、1基金平均では610億円余となっています。資産の保有は、内外株式での保有が54%余を占め、内外債権での保有は30%といった状況にあります。資産の運用は、信託銀行での運用額が58%を占め、次いで投資顧問が31%となっており、生命保険での運用はわずか11%となっています。運用機関の構成では、信託銀行、生命保険、投資顧問の3機関で運用する基金が56%を占め、信託銀行のみで運用する基金は7基金6.5%といった状況となっています。(東総基調べ)

基金用語

【監事】

監事は、厚生年金基金の自己監査機関です。厚生年金基金は、厚生年金保険の一部を代行する公法人であり、基金の事業を長期にわたり健全に継続させる必要上、自己監査機関の設置・選任が義務付けられています。監事は2名構成で、代議員会の選挙により、選定代議員と互選代議員から各1名が選出されます。監事は、毎年度、監査実施計画を策定し、月例監査や総合監査などにあたります。

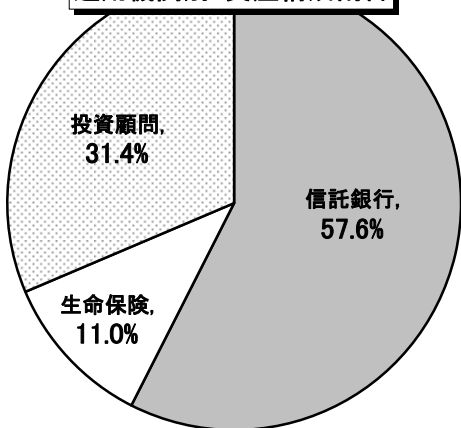
2006年マサチューセッツMPAアワードをバークレイズ・三井アセット受表

評価機関であるマーサーは、MPAアワード(運用パフォーマンスの優れた結果を達成した運用機関の表彰)を毎年実施していますが、先般、当基金の受託運用機関であるバークレイズや三井アセット信託のファンドが表彰を受けています。(把握分のみ)

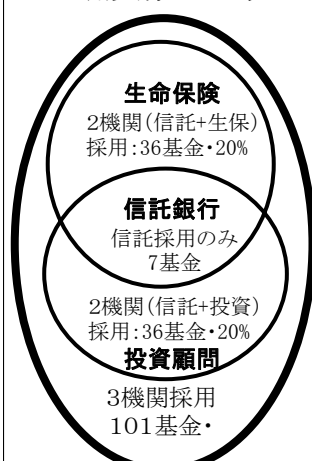
大和総研・コンサルティング部門を子会社化!

大和総研は、先般、組織変更を行ったところですが、このたび、子会社化を発表しました。子会社は、大和総研・資産運用マネジメント本部で行っている「投資評価」・「年金運用コンサルティング」・「ファンド・オブ・ファンズ」の3業務を柱とし、本年10月を目途として営業を開始する予定のようです。

運用機関別・資産構成割合



運用先別・基金数



資産別・資産額構成割合

